



お香とは

仏教とともに中国大陆から日本にもたらされた「香」は、やがて室町時代に「香道」として成立しました。「源氏物語」にちなんだ「源氏香」という遊び方があるように、香道は文学や茶道などの諸芸能と結びつきながら発展します。そして江戸時代には、鍋島家などの大名家にとっても欠くことのできない文化のひとつとなりました。

これにちなみ、徴古館では毎年お正月に、本格的な香木の香りを体験できる「初春の香りを楽しむ」を開催しています。



鍋島家とお香

多くの大名家と同様に、江戸時代に36万石を有した大大名のひとつである佐賀藩主鍋島家にも、初代藩主鍋島勝茂公の香炉や香盆、2代藩主鍋島光茂公継室榮正院の香箱、10代藩主鍋島直正公の香合や夫人の香割道具などといった香道具の数々が伝わっています。

また「雨中の加」という記録には、9代藩主鍋島齊直公の時代に佐賀藩士香田利兵衛が大坂で志野流の師匠に入門したことが記されています。



松竹梅香

今年の組香（志野組香外組の内）

香道には、異なる種類の香りを聞き分ける「組香」という遊び方があります。たとえば「源氏香」「四季香」「七夕香」など、文学作品や季節、名所などの風情を取り込み、香りを楽しむものです。

徴古館の「初春の香りを楽しむ」では、初春にふさわしい組香を毎年行っており、今年は「松竹梅香」という組香を行います。

松竹梅香は「松」「竹」「梅」の3種類の異なる香りを聞き当てるものです。まず、3種類の香りを聞いて、その印象を記憶します（試香）。そのうち、香元から炷き出された香炉が3つ廻ってきます（出香）ので、心を落ち着けて香りを聞き、「松」「竹」「梅」の香りが、どの順番で廻ってきたのか、自分の答えを料紙に書きまします。最後に答え合せを行い、正解した方に料紙がプレゼントされます。新年に相應しい松竹梅の情景とともに香りを楽しむ遊びです。



山形に整えた灰の上に「銀葉（ぎんよう）」という薄いプレートが敷かれ、その上にのせた香木がほのかに香ります。佐賀香遊会の方々による美しい所作も見どころです。



香炉が順番に廻ってきます。静かな心で香りに意識を研ぎ澄ませると、非日常の贅沢なひとときです。



香道の歴史や遊び方、香炉の取り扱い方など、梶島禪徹先生（志野流香道九州松隠会）が分かりやすく解説して下さいますので、初心者の方もご遠慮なく。

開催中の展覧会 | 当日は、開催中の展覧会もご観覧いただけます 「愛娘への手紙 ―『名君』鍋島直正の素顔」展

「名君」と言われる10代藩主鍋島直正公は、長女貢姫（みつひめ）と13年間にわたり手紙を交わし続けるなど家族想いの殿様でした。本展は、愛娘へ送った手紙196通をまとめた資料集『愛娘への手紙』の出版記念展として、その中から19通を現代語訳つきで親しみやすく紹介します。大切な人を想うこと、想いを言葉にすることの大切さに気づくことができる展覧会です。

11月24日（火）―1月23日（土）
※日曜・祝日・年末年始（12/27～1/3）は休館
【時間】9:30～16:00
【入館料】300円（小学生以下は無料）



貢姫宛て鍋島直正書簡（公益財団法人鍋島報効会所蔵）



交通アクセス | 無料駐車場あります（無料）
長崎自動車道 佐賀大和I.C.から、市街方面へ車で約20分
佐賀バスセンターから、市営・昭和・祐徳の各バスで「県庁前」または「佐賀神社」下車
JR 佐賀駅から、県庁方面へ徒歩約20分

お問い合わせ |
info@nabeshima.or.jp
http://www.nabeshima.or.jp
(0952)23-4200（公益財団法人鍋島報効会）



徴古館
The Museum CHOKOKAN
NABESHIMA